

ドイツの暮らしについて

デュッセルドルフ日本人学校 東方広海



1 デュッセルドルフ市について

私の勤務地デュッセルドルフ市はドイツ西部に位置し、ノルトライン・ヴェストファーレン州の州都です。デュッセルドルフ市とその近郊には、約8200人も日本人が住んでいます。そのため、デュッセルドルフには日本食スーパーや日本人幼稚園、そしてお寺までもあります。

ところで、デュッセルドルフ市はひじょうに交通の便がよいところです。ちょうどヨーロッパの中心に位置しているため、飛行機で2時間ほどあれば、ロンドン、ローマ、バルセロナ、ヘルシンキなどヨーロッパの主要な都市に行くことができます。また、町にはライン川も流れているため、多くのコンテナをのせた貨物船が毎日のように往来しています。

したがって、ルール・ライン工業地帯の事務机として、デュッセルドルフ市には日本をはじめ各国の企業がたくさん進出しています。

2 ドイツ人はエコなのか？

ドイツといえば、太陽光発電による発電量が世界一だったりするので、「環境大国」のイメージが強いのではないのでしょうか？

「ドイツって、家庭ゴミの選別がきびしそう。」

と思う方もいるでしょう。まず、空き瓶は自宅近くの大きな共同ゴミ捨て場に行って、瓶専用のゴミ箱に入れます。そのとき、瓶は透明、緑、茶に分けて入れます。紙類も共同ゴミ捨て場にある紙類専用のゴミ箱に放り込みます。それで、おしまいです。缶やプラスチック、飲料パックは自宅にある黄色のゴミ箱にまとめて入れるだけです。中身を洗うこともありません。そして、生ゴミや木の枝などは茶色のゴミ箱に入れます。最後に、よくわからないものは全部グレーのゴミ箱です。つまり、そんなに細かく選別する必要はありません。

続いて、リサイクルです。ドイツでは、道端でペットボトルやビール瓶のゴミを見かけることはありません。理由は簡単です。「お金」になるからです。ドイツのスーパーには、ペットボトルやビール瓶を回収する機械が設置されています。ここに、ペットボトルやビール瓶を入れると、機械が自動で商品のバーコードを読み取り、商品券となるレシートがプリントアウトされます。実際に、500mL×11本入りケースのビールを購入します。料金は8.37ユーロでした。このビールを飲み終わって、どのお店でもいいので、ケースごと持って行くと、2.38ユーロ分の商品券が出てきます。よくよく購入時のレシートを見ると、500mL×11本入りケースのビールの値段は5.99ユーロです。しかし、その下に「PFAND 2.38」の文字があります。これは、デポジット（預かり金）のことです。つまり、購入時にビール瓶1本当たり0.08ユーロと1ケース当たり1.50ユーロのデポジットが含まれていたのです。ちなみに、1L×12本入りケースの炭酸飲料水のペ



ットボトルをリサイクルした場合、ペットボトル1本当たり0.15ユーロと1ケース1.50ユーロ分の商品券が出てきます。

今回、ビールと炭酸飲料水2ケースをスーパーに運んでリサイクルするだけで、5.68ユーロ(約800円)分の商品券を手に入れました。本当は返金されただけですが、ちょっと得をした気持ちになります。

3 自由に行き来できるというけれど

みなさんご存じの通り、EU圏内は自由に行き来できます。ドイツは人口30万~50万規模の都市が数多く点在しているため、遠くに行かなくても買い物は十分にできます。しかし、ドイツで生活する上で、ちょっと困ったこともあります。それは、日曜日と祝日はレストランとガソリンスタンド以外すべてお休みです。本当に、面白いくらいにお店は閉まっています。ドイツでは閉店法という法律があって、日曜日と祝日はお店がお休みなのです。さて、そこに目をつけた商売上手な人を見つけました。デュッセルドルフ市からアウトバーン(自動車道)に乗って30分ほど行くと、オランダのルールモント(Roermond)というドイツとの国境に面した町に到着します。何と、ここには巨大なアウトレットモールがあるのです。このアウトレットモールには高級ブランド店や有名スポーツ用品メーカー、高級台所用品などが販売されています。日曜日や祝日になると、ドイツ方面から車がたくさん押し寄せてきます。ちなみに、2015年4月26日(日曜日)にアウトレットモールの駐車場の車200台を調べたところ、ドイツ134台、オランダ49台、ベルギー15台、フランス1台、ポーランド1台でした。

4 ドイツと日本をつなげる架け橋として

本校は、1971年に設立し、2015年現在は小学生387人、中学生127人が通っています。現

地のイベントにもたくさん出演しています。例えば、合唱クラブと写真②日本デーに出演する合唱クラブ
ウィンドアンサンブル部は、毎年、5月に行われる日本デー(Japan Tag)に出演し、合唱や演奏を披露しています。この日本デーはたった1日の開催にもかかわらず、約65万人の人々が訪れる、大きな催しです。ドイツでも人気の日本のアニメの曲が流れると、ドイツの方々も口ずさんだり、手拍子をうったりして、一緒に盛り上がります。

また、デュッセルドルフ市は昔、ヴォーリンゲンの戦いで帰還した兵士を子どもたちが側転をして歓迎したという歴史から、側転小僧が名物となっています。そこで、ライン川沿いで、毎年、側転大会が行われており、本校の児童も出場しています。今年は、多くの児童が入賞し、学校賞まで受賞しました。

その他、現地の学校とサッカーやバスケットボールを通じた交流、琴クラブによる現地校の音楽祭への出演が行われています。

このように、ドイツの生活や文化とかわりのある交流を行っています。

5 外国の人々を理解するために

ドイツに来て、外国の人々を理解するためには、さまざまな角度から考える必要があると思いました。外国を理解することといえば、地理的分野で扱うことが多いと思います。確かに、位置や場所という視点からその国について理解することは必要だと思います。しかし、その他に、その国の人々の行動の裏にある法や制度などの社会システムが存在していることをあわせて学ぶことも重要だと思います。このように、総合的にとらえる学習が今後にも必要ではないかと思ひます。



写真② 日本デーに出演する合唱クラブ